

高天原に神留り坐す 皇親神漏岐神漏美の命以ちて 八百万

の神等を 神集へに集へ賜ひ 神議りに議り賜ひて 我が

皇御孫命は 豊葦原水穗国を 安国と平けく知ろし食せと

事依さし奉りき 此く依さし奉りし国中に 荒振る神等をば

神問はしに問はし賜ひ 神掃ひに掃ひ賜ひて 語問ひし磐

根 樹根立ち 草の片葉をも語止めて 天の磐座放ち 天の

八重雲を 伊頭の千別きに千別きて 天降し依さし奉りき

此く依さし奉りし四方の国中と

大倭日高見国を

安国と

定め奉りて 下つ磐根に宮柱太敷き立て

高天原に千木高知

りて 皇御孫命の瑞の御殿仕へ奉りて

天の御蔭 日の御蔭

と隠り坐して 安国と平けく知ろし食さむ国中に 成り出で

む天の益人等が 過ち犯しけむ種種の罪事は

天つ罪 国

つ罪 許許太久の罪出でむ 此く出では 天つ宮事以ちて

天つ金木を本打ち切り 末打ち断ちて 千座の置座に置き足

らはして 天つ菅麻を本刈り断ち 末刈り切りて 八針に取

り辟きて 天つ祝詞の太祝詞事を宣れ

此く宣らば 天つ神は天の磐門を押し披きて 天の八重雲を

伊頭の千別きに千別きて 聞こし食さむ 国つ神は高山の

末 短山の末に上り坐して 高山の伊褒理 短山の伊褒理

を搔き分けて聞こし食さむ 此く聞こし食してば 罪と云ふ

罪は在らじと 科戸の風の天の八重雲を吹き放つ事の如く

朝したの御霧みぎり

夕ゆふの御霧みぎりを

朝風あさかぜ

夕風ゆふかぜの吹ふき払はらふ事ことの如ごとく大おほ

津辺つべに居をる大船おほふねを

舳解へとき放はなち

臚解ともとき放はなちて大海原おほうなばらに押おし

放はなつ事ことの如ごとく彼方をちかたの繁木しげきが本もとを

焼鎌やきがまの敏鎌とがまも以もちて打うち掃はら

ふ事ことの如ごとく遺のこる罪つみは在あらじと

祓はらへ給たまひ清きよめ給たまふ事ことを高たか

山やまの末すゑ短山ひきやまの末すゑより

佐久那さくな太理だりに落おちたぎつ速川はやかはの瀬せ

に坐ます瀬織津比売せおりつひめと云いふ神かみ

大海原おほうなばらに持もち出いでなむ此かく

持もち出いで往いなば

荒潮あらしほの潮しほの八百道やほちの八潮道やしほちの潮しほの八百会やほひに

坐^ます速^{はや}開^{あき}都^つ比^ひ売^めと云^いふ神^{かみ} 持^もち加^か加^か吞^のみてむ 此^かく加^か加^か吞^のみ

てば 氣^い吹^ぶ戸^どに坐^ます氣^い吹^ぶ戸^ど主^{ぬし}と云^いふ神^{かみ} 根^ね国^{くに} 底^{そこ}国^{くに}に氣^い吹^ぶき

放^{はな}ちてむ 此^かく氣^い吹^ぶき放^{はな}ちてば 根^ね国^{くに} 底^{そこ}国^{くに}に坐^ます速^{はや}佐^さ須^す

良^ら比^ひ売^めと云^いふ神^{かみ} 持^もち佐^さ須^す良^らひ失^うしな 此^かく佐^さ須^す良^らひ失^うしな

てば 罪^{つみ}と云^いふ罪^{つみ}は在^あらじと 祓^{はら}へ給^{たま}ひ清^{きよ}め給^{たま}ふ事^{こと}を 天^{あま}つ

神^{かみ} 国^{くに}つ祇^{かみ} 八^や百^ほ萬^{よろづ}神^{のかみ}等^{たち}共^{とも}に 聞^きこし食^めせと白^{まを}す